

マグネットシート製作業務仕様書

1 業務内容

びわ湖疏水船乗下船場に設置するマグネットシートを制作し、納品すること。

2 法令等の遵守

受託者は、本仕様書、京都市上下水道局契約規程その他業務上関連する法令及び条例等を遵守しなければならない。

3 マグネットシートについて

マグネットシートの仕様及び数量は以下のとおりとする。

種類	数量	サイズ (mm)	素材等
びわ湖疏水船 蹴上乗下船場	1	W900mm×H300mm	無反射マグネット UVラミネート加工
びわ湖疏水船 ルートマップ	1	W1450mm×H822mm	無反射マグネット UVラミネート加工
びわ湖疏水を彩る 洞門・扁額	1	W420mm×H594mm	無反射マグネット UVラミネート加工
蹴上に関する 古写真	1	W841mm×H594mm	無反射マグネット UVラミネート加工

4 支払方法

完了後一括払い

5 提出書類等

受託者は、以下に定めるものを京都市上下水道局総務部総務課に提出すること。

- (1) 3に定めた成果品
- (2) 業務完了届
- (3) 請求書

6 契約期間

契約締結の日から令和8年11月16日まで

7 その他

- (1) 本仕様書に記載のない事項又は仕様書に疑義が生じた場合は、京都市上下水道局（以下「上下水道局」という。）と協議し、その決定に従うこと。
- (2) 本業務に関する著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む。）は、当局に帰属するものとする。
- (3) 上下水道局は、必要に応じて、業務内容の変更を行うことができる。この場合において、受託者と協議のうえ決定するものとする。



びわ湖疏水船 蹴上乗下船場

びわ湖疏水船 ルートマップ

The Lake Biwa Canal Cruise Route map



どうもん へんがく
琵琶湖疏水を彩る 洞門・扁額

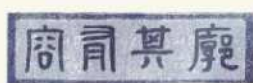
第一トンネル東口
First tunnel
East entrance



「氣象萬千」
きしょうばんぜん
〔意味〕
様々に変化する風光は
すばらしい
〔揮毫者〕
伊藤博文
(初代内閣総理大臣)



第一トンネル西口
First tunnel
West entrance



「廓其有容」
かくとしてそにいることあり
〔意味〕
疏水をたたえる大地は、
奥深く広々としている
〔揮毫者〕
山縣有朋
(初代内務大臣)



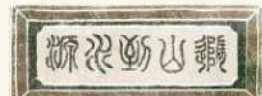
第二トンネル東口
Second tunnel
East entrance



「仁以山悦智為水歎」
じんはやまをもつてよろこび
ちはみずのためによろこぶ
〔意味〕
仁者は動かない山によりこび、
智者は流れゆく水によりこぶ
〔揮毫者〕
井上馨
(初代外務大臣)



第二トンネル西口
Second tunnel
West entrance



「隨山到水源」
やまにしたがいてすいげんにいたる
〔意味〕
山に沿っていくと
水源にたどりつく
〔揮毫者〕
西郷従道
(初代海軍大臣)



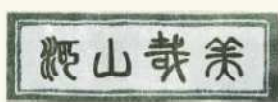
第三トンネル東口
Third tunnel
East entrance



「過雨看松色」
かうしょうしよくをみる
〔意味〕
時雨を過ぎると一段と鮮やかな
松の緑をみる事ができる
〔揮毫者〕
松方正義
(初代大蔵大臣)



第三トンネル西口
Third tunnel
West entrance



「美哉山河」
うるわしきかなさんが
〔意味〕
なんと美しい
山河であろう
〔揮毫者〕
三条実美
(初代内大臣)



蹴上合流トンネル北口
Keage confluence tunnel
North entrance



「籍水利資人工」
すいりをかりてじんこうをたすく
〔意味〕
自然の水を利用して
人間の仕事に役立てる
〔揮毫者〕
田邊朔郎
(京都府御用掛)



蹴上ねじりまんぼ西口
Nejirimampo tunnel
West entrance



「雄観奇想」
ゆうかんきそう
〔意味〕
見事な眺めとすぐれた
考えである
〔揮毫者〕
北垣国道
(第三代京都府知事)



蹴上に関する古写真

(写真はすべて田邊家資料から抜粋)

- ① 右の写真は、1912（大正元）年の写真帖にて確認できる御所水道を通じて供給された防火用水の放水試験の様子。約50mの高低差を利用することで、紫宸殿の屋根上まで放水が届いていたことが確認できる。
- ② 左下の写真は、1893（明治26）年頃の蹴上船溜付近（現在の蹴上乗下船場）の様子。この後、下流に移設されることとなるドラム工場（右手奥の白い建物）が確認できる。
- ③ 右下の写真は、明治期（詳しい年代不詳）の南禅寺船溜（琵琶湖疏水記念館付近）と稼働中のインクラインの様子。つるべ方式で稼働するインクラインの台車が確認できる。



↑ ① 御所・紫宸殿での放水試験の様子(1912年の写真帖より)

↓ ② 蹴上船溜とドラム工場(1893年頃)



③ 南禅寺船溜及び蹴上インクライン(明治期) ↓

